

ろくおん通信

第21号

1989年11月15日
盲人情報文化センター
録音製作係

専門別音訳研究会 「一般科学」報告

1989・10・19

久保 洋子

これまで何冊かの理数系の本を読んで、利用者に申しわけない失敗を重ねてきました。そうした経験から今回は、専門書ではなく一般書を読む時に注意しなければならない点をあげてみました。

1 数式の読み方

記号の及ぶ範囲を明確に (例 分数 平方根 etc.)

読み方は、7階にある“数式の読み方”というプリントが参考になります。但し一般的でない読み方(例 絶対値の記号スリバ、行列の記号パーレン etc.)を使う時には、その意味を始めに説明する。

2 グラフ

グラフの名称 各グラフの使われ方などを知っていると説明が楽にできます。また、上に凸(下に凹)な曲線、y軸に関して対称、原点に関して対称、放物線、漸近線、回帰直線、対数目盛など、用語とその意味をいろいろと知っているると便利です。百科事典も参考になります。

3 化学記号

CO_2 などの2は、ニでもツーでも良いのですが、一冊を通して一貫した読み方をすることが大切です。 Na^+ 、 Cl^- などイオンの記号がある時、加減の記号と読みわけることが必要です。

4 カタカナ語の切り方、続け方

イソソルビトール、フルドキシコルチド、パラフェニレンジアミンなど、薬品名には長いものがたくさんあります。切り方を間違えるとおかしいことになります。学術用語集(化学篇)科学大辞典などで調べてください。

以上ほんの僅かな例をあげただけですが、理数系の本を理解して読むことはそう誰にでもできることではありません。原本を忠実に読み理解は読者にゆだねなければならない場合もあると思います。その場合誤って読んでしまうことのないよう、音声訳者、校正者、皆で知恵をだし合う事が必要だと思ひます。また日常、新聞の科学記事などに関心をもって読むこともいつか役に立つと思ひています。御意見をお待ちしています。

川端退職後の製作体制について

録音製作係

『ろくおん通信』でもお知らせしました通り、川端の退職に伴い今後の製作体制をどのようにするかを内部で検討しました結果、下記の通りとなりました。

記

○川端の後任としては、職員としての採用は行わず、アルバイトでカバーする。この措置は来年3月までとし、4月以降については平成二年度の事業計画の中で考える。

(アルバイトの場合は、契約が二ヶ月更新で最長一年までです。)

録音製作の業務も経験の積み上げがあって初めて一人前と言えるのですが、残念ながら現状を維持することは難しい結果となってしまいました。

○今後の製作体制としては、

1. ボランティアのチーム化を推進する。

a. スタジオに関しては曜日別チーム化を行う。

b. 各曜日にはボランティアの中から世話役2名を選び、施設との連絡伝達・調整また、日常の処理・機械操作などの相談にあたっていただきます。

c. 編集ボランティアも一つのチームとして、世話役2名をおきます、役割は上記の曜日別ボランティアと同じ。

d. 各チームの世話役は月に一度連絡会議を設け、ボランティア活動上の問題、あるいは月例会などの研修についての検討などを行う。

2. スタジオの効率的使用について

a. スタジオ録音は蔵書製作の録音を原則とします。

b. リクエスト作品の録音は自宅を原則とします。

(機器は必要に応じて盲人情報文化センターの録音機を貸し出します。)

c. スタジオ使用の時間帯は、午前の部(9:30~13:00)、午後の部(13:00~16:30)とに分け、それぞれの時間帯について予約していただきます。

※スタジオの数が限られていますので、時間が中途半端にならないよう、できるだけ効率よく使えるように予約して下さい。

d. グループ分けのため現在活動されている曜日を所属グループの曜日とします。ただし、現在週二度以上録音されている方は、いずれかの曜日に所属していただきます。

※'89年度講習会修了生が、来年3月よりスタジオ録音を開始する予定で、スタジオの効率的活用が必要となっています。

3. そのほか

- a. 原本の受渡し……施設の選書委員会で選ばれた図書を職員もしくは、世話役を通してお渡しします。(従来のように数タイトルの中から選んでいただきます。)
- b. 製作の調整・相談……世話役を中心に行います。(必要に応じて職員がアドバイスします。)

以上のような製作体制の変更を考えています。つきましては製作体制の説明を順次行うとともに、現在のボランティア数の確認の意味も含め、ボランティアの再登録を行いたいと考えています。準備が出来次第実施する予定ですのでよろしくご協力下さい。

—————良いテープ図書を作るには————— (前月号の続きです。)

《活動初期に音訳・校正・編集の全パートを経験してみることに》

- 1) 各パートの技術内容と可能性と限界を知ることができる。
- 2) 調査・校正・訂正・編集の仕方などを覚え、テープ図書の製作過程を理解しておいた方が活動しやすい。

但し、編集は技術修得に時間がかかるので、指導職員が少ない現状では不可能であるとの職員の発言がありました。

その他、音訳者は編集済みの自分の完成テープを聴いてみた方が良い。一度も聴いたことのない人が殆どのような、との話しも出ました。

色々な提言が沢山ありましたが、なるべく多くの方の夫々の立場からのご意見を聞かせていただいて検討し、ボランティア同志で協力して解決できるものを一つずつ消化していきましょう。最初の出来上がり次第で、テープの質がほぼ決ると編集の方々はおっしゃいます。少しでも聴きやすい良質のテープ図書を作るように心掛け、勉強を続けましょう。

「内容が充分伝わっているのか、ハラハラしています」

米谷 治子（みなわ）

朝日ジャーナルの録音で、どんな事が大変ですか？と質問されたら、私は即座にこう答えるだろう。「それは、決められた時間内で録音を済ますことです。」

朝日ジャーナルのテープ製作の一端に携わるようになって1年8ヶ月。漸く慣れてきたと言えようか。

製作手順を簡単に説明すると、4つのグループが、毎月第1週から第4週までの各号をそれぞれ受け持ち、年間の予定表に従って、①、担当号を購入。②、90分テープ1本分に選択された記事をグループ（1グループは4人で構成）内で振り分け分担する。③、スタジオでペア録音。（2組に分かれ片面づつ担当）④、編集。となるが、何しろ時間制約のある週刊誌のこと。何日も時間をかけることは許されず、半日で録音する。

今まで慣れ親しんできた家庭録音の場合は何度でも行きつ戻りつ、自分のペースで進められたものが、スタジオではそうはいかない。スタジオの使用は予約で決められているし、初めてのペア録音でもあると来て、最初の頃は、読み手はコチコチ、機械操作はウロウロ。朝一番に乗り込んだのに、もうお昼？予定の半分も読めていないのに！あちらのテーブルからは、楽しそうな話声や良い匂いがしてくる。時計を眺めては、また間違えてしまう。後の方のご好意で、スタジオを譲って頂いたり、やっとの思いで録音を終えた時は、ホント、自身が落ち窪んでおりました。

そんな繰り返しのうち、次第にペースも掴めスピード・アップ出来るようになったが、まだまだ時間との戦いである。

週刊誌であるからには当然、記事もあらゆる分野に渡り、難解な文章、舌をかみそうなやゝこしい言いまわし、外国語が頻繁に出てくる文、下調べのつかない人名等々、苦勞も多い。反面、知識や情報など得る所が多く、結構楽しんでいる。以前に比べ、少し賢そうな顔になったと気付いた人もいます。只、最近多い、痛ましい事件を読むのは辛い。

相棒との息も合ってきた此頃ではあるが、聞いてくださる500人余の会員の方に、内容が充分伝わっているのかどうか。力不足の分、内心ハラハラしている。

✧ ✧ ✧

—編集後記— 前回の「ろくおん通信」で報告しました皆様方のご意見を参考に、川端さんの退職後の蔵書製作体制が検討され発表されました。毎日、職員の説明があり、徐々に実施していく予定とのこと。今迄以上に質の良いテープ図書を製作するよう頑張らしましょう。

「ろくおん通信」への投稿お待ちしております。又、編集にどうぞご参加下さい。

（工藤）

今回のスタッフ（久保、土田、古谷、工藤、清水）